

2025

12

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【18】

涼さんぽ【8】／橋本涼

ショートショート【2】／鏡マリコ

高校生短歌特集【12】



NILE CAMPUS

318

伯梅閑話 — 高砂屋福助の化粧前 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

歌舞伎の高砂屋中村福助を歌舞伎座で見たことを二〇二五年八月号のナイルキャンパスで書いたが、誤りを見つけた。伯龍は、「芝居は招待されて行くものだ」と言って、招待された明治座と前進座にしか行かなかった。そのため、私も歌舞伎座に行くことはなかった。そのせいで、うっかりしたのだ。

判官切腹で福助丈は上使。幕が開くと、一番最初に花道から登場する。忠臣蔵だから、話の筋はわかっているそのせいかも知れないが、勘違いをした。事實は、登場した途端、いいなあと思って誰だろうと配役を見たのだった。なぜかわからぬが、いい男で、見るなりスカッとしたのだった。その福助が亡くなったあと、遺品を届けるお手伝いに私の車を出した。神楽坂の坂上のお宅に長い机のようなものを届けた。高砂屋のおばさまは、玄関先にそれを置いて声もかけずにお戻りになった。伯龍に対してもそうだったが、自分以外の人のすることに口出ししない私なので何も言わなかった。

その遺品整理のとき、おばさまは私に福助丈が使った日本画の絵具類と福助丈の化粧前（化粧道具の入った大きな木の箱、相撲取りの明け荷に相当する）をくださった。そのころ住んでいた住まいの大家は、越路吹雪のお姉さまとも知り合いの洋裁店をしていた方で、奥様が大家で、保証人のない方の保証人に奥様の夫がなったことがあるという大物だった。この方が、日本画をなさっていたので差上げた。化粧前は、そのころ、鎌倉市内の稽古場で、沖縄舞踊をしていたので、おばさまは私が使うと思われたのであろう。もちろん、沖縄舞踊では使うことはない。一度、少し開けてみたが、開けたら元に戻せないと思ってそのままにしていた。ナイルを辞めた亜土久氏が、歌舞伎をしていると知って、亜土氏にもらっていた。